

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長 松宮 吾朗

### はじめに

戦後、辺り一面の焼け野原から再び歩み始めた我が国日本は、終戦を境に民主主義を基調とする平和主義の国へ生まれ変わりました。経済的に自立した独立国へ進む道は、決して容易なものでは無く、戦争とは別の生きる事への新たな闘いが始まりました。そして、先人達は様々な困難を乗り越え、日本を経済的豊かさが感じ取れる国家に導いてこられました。

終戦直後の混乱期の中、「新しい日本の再建は、我々青年の仕事である」という熱い情熱と高い志を持った青年達によって、日本青年会議所は記念すべき一步を踏み出しました。終戦から70年の月日を経て現在、65年の歴史を持つ日本の青年会議所運動は、目覚ましい発展を遂げ、697LOMに3万3千余名の会員が集う、戦後最大の青年運動団体となりました。その様な時代背景のもと、1979年に「明るい豊かな社会の実現」に向け、この乙訓をより良くしようという熱い情熱と高い志を持った若者が集い、乙訓青年会議所が誕生しました。そして、1999年には乙訓青年会議所が目指す一つの到達点として、2020年ビジョン「地球市民意識あふれる乙訓」が掲げられました。その中で、刻々と変化する社会情勢に伴い、我々が進むべき方向性を常に検証しながら行動指針を策定し、35周年を期に新たな行動指針として、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」を提言し、自立「私たちが夢と誇りを持とう」、共生「私たちが夢を与えられる人になろう」、創造「私たちが誇りを持てるまちにしよう」の3本柱で活動をより明確化しました。これまでの長い歴史の中、それぞれの時代で手法や表現が異なっても、今なお熱い情熱と高い志が脈々と受け継がれております。今後も市民、行政、地域諸団体と共に我々青年が、この乙訓に対して愛着を持ち、より良くする為に率先して活動していかなければなりません。我々の前向きで真剣な姿が、地域の方々に広く伝播する事で、青年会議所の目指す「明るい豊かな社会の実現」に繋がると確信します。「この乙訓で生まれ育ち本当に良かった」と誰もが心から想える様に、これからも乙訓青年会議所メンバー一人ひとりが、先輩諸兄から受け継いだ情熱と志を胸に持ち続け「誇れるJAYCEE」「誇れる組織」「誇れる乙訓」を目指し、地域の負託と信頼に応え続けていかなければなりません。

### 笑超蒼天

幼い頃、都心での暮らしに憧れを抱いていた私は、社会に出たのを機に地元を離れて暮らす様

になりました。しかし、離れて暮らせば暮らす程、また、地元に戻って来る度にいつしか生まれ育ったこの乙訓に対する愛着を抱く様になりました。帰郷後、父親から受け継いだ会社で働く中で「何かこのまちに関われないか」、その様な気持ちを持ち始めた頃、地域の若者が乙訓をより良くする為に活動している乙訓青年会議所と出会い、素晴らしい仲間と共に、自身を成長へと導くチャンスを頂きました。その活動を通じて、いつしか乙訓に対する愛着やここに住んでいる喜びが自身の「誇り」であると考えられる様になりました。

私は、「武士は食わねど高楊枝」という言葉が好きで心に留めております。武士は、貧しくて食事が出来なくても、あたかも食べたかの様に「食った食った」と楊枝を使って見せるという意味です。それは、武士の「誇り」とも捉えられます。乙訓青年会議所も武士の如く、先輩諸兄から脈々と受け継がれた「自分がやるしかない」という、あふれる情熱と高い志を胸に、一人ひとりが率先して活動する誇れる組織であると私は確信します。しかしながら、どの様な人でも人生を送る上で常に楽しい事ばかりでは無く、必ず様々な形で苦難という壁に阻まれます。どんな時も夢に向かい、前向きに苦難を乗り越えていく気概が必要であり、我々には、先輩諸兄から受け継いだ「誇り」を次代へ繋ぐ使命があるのです。

2016年度スローガンに「笑超蒼天」を掲げ、～誇りを繋げ！その力が乙訓の未来を創る～をテーマに活動します。メンバーに様々な苦難を前向きに乗り越えていける姿勢を持って頂く意味で「笑超(しょうこ)」、そして笑顔で乗り越えた暁には、自身が成長した素晴らしい景色が見える様を「蒼天(そうてん)」で表しました。乙訓青年会議所メンバーは、日々の自己修練を無駄にせず、今後の活動に対して「笑顔で苦難を乗り越えられるJAYCEE」「笑顔を周囲に伝播出来るJAYCEE」となり、何事にも前向きにチャレンジして頂きたいと思います。我々が常に前向きに日々の活動に取り組む事で、自身のより良い成長に繋がると共に、笑顔が人からひとへ伝播し乙訓全体がより一層明るくなると考えます。まず私が先頭に立ち、組織のリーダーとして苦難に対して前向きにチャレンジする、笑超蒼天の気概を持って乙訓青年会議所の誇りを継承します。

## 地域に貢献出来る乙訓のリーダーを育成し、魅力ある組織を拓けよう

現在の日本は、少子高齢化に伴う人口減少、地域経済の縮小、地域コミュニティの希薄化という様々な課題に直面しています。その課題の解決には、地域が市民主導型社会へと自立して行く事が必要不可欠であり、自らの手で企画し実践出来る人財、すなわち「リーダー」を地域に育み、より一層地域を活性化させる必要があります。まず私達自身が、様々な立場で地域に関わる人々の協力を得ながら、一つの方向性を持ち地域に貢献出来るリーダーにならなければなりません。

地域に貢献出来るリーダーとは、自己の利益だけを追求するのではなく、地域社会の一員として住まう方々と共に、地域の発展に寄与する中でリーダーシップを発揮出来る人財です。また、リーダーシップとは「自らを当事者として動かせる」意識を持ち、「何の為に」「何を目指して」という方向性を周りに示し、「計画」「実行」「検証」をする中で周囲の人に影響を与える力です。明るい豊かな乙訓を実現するには、我々が地域に貢献出来るリーダーを目指し、メンバー一人ひとりの資質

向上が必修であると共に、地域の方々も一緒に学んで頂ける機会が必要です。その為にも、地域に開かれた学びの場となる例会を開催し、多様な角度からリーダーシップについて学んで頂く事で、地域に貢献出来るリーダー育成の機会を設けます。また、座学に留まらずメンバー向けの資質向上事業も開催し、普段の例会とは違う切り口でメンバーの成長を促します。今後も、乙訓の為に活動するJAYCEEとして、更なる躍進と地域から必要とされるリーダーを目指し「自分がやるしかない」という、あふれる情熱を持って周囲を巻き込める人財へと成長し、笑顔あふれる乙訓を創造しましょう。

40歳で卒業を迎える青年会議所に於いて、昨年度、乙訓青年会議所では11名の卒業生を送り出しました。本来、我々が目指すべき姿は、会員の拡大活動そのものが無くとも人財が集う組織です。しかし、様々な時代背景と卒業という枠組みがある中、会員拡大に尽力するものの、現状のメンバー数を保つまでに留まっています。「明るい豊かな乙訓の実現」を目指し、今後も地域に根ざした活動を継続していくには、一人より二人、二人より三人と、一人ひとりが持つ力を集結させ、乙訓青年会所の運営維持と発展に繋げる事で、我々の運動を力強く発信させなければなりません。そして、仲間を増やすには、一人でも多くの方々に我々の何事にも前向きに取り組む姿勢を感じて頂く事で、青年会議所活動の魅力を伝播していかねばなりません。

会員拡大は地域貢献に繋がる究極の青年会議所活動である事を認識し、他の青年会議所の有効な拡大手法も参考にしながら、これまでの手法に工夫を凝らしメンバーの拡大に繋がります。そして、会員拡大活動は決して難しいものではなく、相手にしっかりと青年会議所の魅力が伝われば入会に繋がり、仲間を増やす楽しい活動であるという認識を持って頂く為に、「乙訓青年会議所の魅力の共有」と「青年会議所の魅力を伝える力」を養う機会を設けます。更に、担当委員会だけでは無く、メンバー全員で乙訓青年会議所の魅力を共有し伝える事が出来れば、情熱の燈火が次々と伝播し、私達の乙訓を明るく照らすと確信します。

新たなメンバーが入会に至るまでのサポートや入会後のサポートは勿論の事、同じ志を持つ仲間として意識を高める機会を設けると共に、一年間の拡大活動に於ける報告、検証を行い次年度にしっかりと引き継ぐ機会を設けます。「魅力的な組織は魅力的な人財によって創られる」「魅力的な人財は魅力的な組織に集う」という考えのもと、人財の育成と拡大は互いに連携し合い、その相乗効果で乙訓青年会議所の魅力を増幅させ、誇れる組織の基盤強化に繋がらしましょう。

### 未来を担う子ども達に夢を与え、愛郷心と誇りを育む乙訓創り

近年の急速な社会環境の変化が、子ども達の徳育に大きく影響し、「他者への思いやり」「生命尊重・人権尊重の心」「人間関係を形成する力」の低下が指摘されています。また、社会を震撼させる青少年が関与する様々な事件が連日報道されています。しかし今、子ども達の行動に対して指摘されている問題点の多くは、むしろ大人達に責任があるのではないのでしょうか。また、幅広い可能性を伝えるべき大人が、如何様にも感化される子ども達の手本となり得ていないのではない

でしょうか。我々大人がその環境を整えて行く必要があります、子ども達に対し「生き方は言葉で教えるのではなく背中で見せるもの」という意識を持たなければなりません。そして、子ども達が豊かな「人間性」を育むには、まず大人自らがモラルの向上に取り組むと共に、子どもへの徳育を充実させる必要があります。その上で、子ども同士で様々な体験を通じて、お互いを大切にする事を学ぶ機会を創出しなければなりません。

地域を形成するのは人であり、未来の地域を輝かせてくれるのは、今を生きる子ども達です。我々大人が、今一度未来を担う子ども達と真剣に向き合うと共に、「憧れられる大人」を目指し、日本の良き道徳心を学ぶ機会を創出します。そして、地域の小学生が集う文化少年団事業は、子ども同士で様々な体験や大人達の背中を見て、「人間性」を育める機会であると共に、子ども達だけでは無く、背中を見せる立場の我々も、自分自身を律する必要がある事に気づかされる大変素晴らしい事業です。今後も、気づきや学びのある素晴らしい事業を構築し、行政、地域諸団体そして乙訓の方々と共に、未来を担う子ども達の健やかな成長を促し、青少年の健全な育成に努めましょう。

近年、地域を取り巻く環境は、地域の賑わいの場であった商店街の衰退により大きく変化しています。また、物質的に恵まれ個人の自由を選択出来る、この時代に生きる私達世代は、この豊かさが仇となり利己主義な考え方が促進され、周りに対しての配慮、まちに対しての夢や誇りを見失った部分も多く存在しているのではないのでしょうか。

この現状を踏まえ我々は、地域資源である市民、行政、地域諸団体が三位一体となり主体的に魅力ある地域を目指し、地域力を更に向上させる必要があります。地域力を向上させるには、一人ひとりが地域の問題に対しての「意識」と、行動を起こそうという「意欲」「動機付け」「主体者意識」を持って行動しなければなりません。その行動は、地域への関心から乙訓に対する愛着へと変化し、自ら行動しようという「意欲」を更に喚起する事に繋がります。それ故に、「夢と誇りを持つ乙訓創り」を実現する為には、乙訓に関心を持ちより良くしようとする「意識」と「意欲」を持ち、乙訓の魅力に触れた人々が愛郷心と誇りを育む事に繋げなければなりません。

これまで乙訓青年会議所は、乙訓の方々と共に事業やボランティア活動、またテーマ別の講師講演の開催を通して、人とひととの繋がりを育む機会や地域の事を考える機会を創って参りました。今日まで構築してきた機会を更に昇華させ、相互連絡、意見交換、共同事業を展開し、複合したネットワークの構築を目指すと共に、市民主導型社会へと繋げていく事業を本年度も開催します。乙訓を継続的に発展させ、住まう方々に自分の乙訓に誇りを持って頂く為にも、今後も愛郷心育める運動を継続的に展開していきましょう。That service to humanity is the best work of life(人への奉仕が人生最善の仕事である)。我々が唱和しているJCIクリードにこの一文がある様に、常に問題意識と使命感を持ち、人や乙訓に対して、主体的に行動の出来る組織を目指しましょう。

## 安心して住める乙訓のネットワークを構築しよう

近年、全国各地で突発的な自然災害が発生し、多くの人命や財産等が失われています。自然災害による被害は、広い範囲に甚大な被害を及ぼす事に加え、復興には長い年月と多大な支援や援助が必要不可欠です。しかし、災害時に於いて、復興に向けた各地域のボランティア団体や市民が集まるものの、行政、地域諸団体との情報を共有するネットワークや役割分担が確立していない事で、迅速な対応が出来ず復興が円滑に図れない現状があります。それ故に、日頃から災害が起こり得る事に留意し、地域ネットワークを活かした迅速な伝達や適切な対応の出来る環境を創出し、災害支援対策に向けた取り組みをしなければいけません。その中で全国各地にJC災害ネットワークを有し、日本、近畿、京都と災害レベルに応じて組織的な支援体制に努める我々青年会議所は、このネットワークを活かしより円滑に、より迅速に情報共有出来る仕組みを拡充させる必要があります。そして、企業、行政、地域諸団体の役割を明確化する事で提携、連携強化に努めなければなりません。

我々は、慎重に調査、検証した上で二市一町の地域諸団体や行政の方々と共に、JC災害ネットワークと地域ネットワークを活かし、災害時の支援対策本部の設置、即座に災害支援対応の出来る情報共有、連絡体制の構築に努めます。そして、乙訓青年会議所、市民、行政、地域諸団体が乙訓のネットワーク構築に向けて連携し、地域に住まう方々が安心して住める乙訓にしていきたいと思います。

## 真の絆を構築し、誇れる組織を発信しよう

メンバーが青年会議所活動をする中で、「社会への奉仕、個人の修練、仲間との友情」の三信条の一つである友情を育むには、メンバー同士が互いに「対話」出来る環境が必要不可欠です。そして、日々の活動を通して相互交流を図り、友情を育む中で組織力の強化に努めなければなりません。その環境を整えるには、メンバー自身が、会議や事業等の主旨を理解した上で参画し、各事業終了後に行われる懇親会の実施意義をしっかりと認識した上で、メンバー同士の真の絆を確立させなければなりません。その中で、メンバー同士が刺激し合い、切磋琢磨する事で信頼関係が構築され、「対話」の出来る環境が創出されると考えます。

力強く元気な乙訓青年会議所を今後も継承していく為に、同じ時間を共有する中でメンバーの様々な考え方を知り、互いを分かり合う事で掛け替えの無い友情を育み、乙訓青年会議所の誇りを繋ぐなければなりません。そして、更に広く信頼関係を構築する為に、乙訓地域だけでなく、地域を越えた友情が育める機会に参加して行く必要があります。外に出る事により乙訓青年会議所の力強さを感じると共に、多くの方々と人間関係を築き、絆の輪を広げましょう。また、LOMを越えた事業を体感する事は、新たな経験を取り入れ、今後の事業を企画・運営する上で大きな財産となります。その為に、各事業への参加意義をしっかりと伝え、積極的に事業参加を促し、メンバーと過ごす時間の中で、信頼を深め真の絆を構築しましょう。

我々は活動する上で、家族と社員の下支えと協力があるからこそ日頃の青年会議所活動が出

来ている事を忘れてはいけません。我々が、家族と社員に日頃の感謝の気持ちを伝えると共に、青年会議所運動の良き理解者となって頂く為の機会を設けます。先輩諸兄から受け継いだこの組織の礎に感謝し、元気で力強い乙訓青年会議所を継承し、乙訓の方々にとって今後も必要な団体となるべく、誇りある組織を創り上げましょう。

我々の運動が、乙訓の負託と信頼を得なければ、自己満足や自己完結な組織に過ぎません。だからこそ、我々は、市民、行政、地域諸団体と乙訓の課題を共有すると共に、様々な手法を用いて、乙訓青年会議所の活動内容や運動を積極的に情報発信し、地域に於ける存在価値を高める必要があります。だからこそ、多くのメンバーでJCIをはじめ、日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会の活動に参画し、乙訓青年会議所を客観的に捉えた中で、組織としての方向性や考え方をメンバー全員で共有し「誇れる乙訓の実現」に向け、地域に発信しなければなりません。また、委員会は青年会議所の運動発信を担う重要な立場として出向者がどのような活動をしているかをしっかり把握し、出向に取り組む姿勢や事業主旨をメンバーに伝達し、理解した上で様々な事業に参画を促す必要があります。そして、渉外交流と運動発信は互いに連携する事で、メンバーの事業参加に繋がる事を認識すると共に、出向先や事業参加で得た多くの学びを次代に伝え、実践する事が乙訓青年会議所の更なる活性化に必ず繋がると考えます。

我々の運動への賛同者を増やす為に、ホームページ、SNS、新聞等の媒体を用いて乙訓青年会議所の運動を市民、行政、地域諸団体に対して迅速に、より積極的に発信して参ります。そして、異業種の方が集う青年会議所活動に於いて、新たな人脈のきっかけ創りは、ビジネスや対外発信力強化に繋がる大変重要な機会と捉え、様々な職種の方が交流出来る場を設けます。

我々の運動や出向先で活躍するメンバーの活動等を地域の方々に情報開示し、乙訓青年会議所の発信に繋げ、まちの負託と信頼を得られる様に「自分が変われば周りが変わる、周りが変われば乙訓が変わる」という想いで我々の運動を大いに発信しましょう。

## 「何の為に」にこだわり、信頼される公益団体を目指そう

乙訓青年会議所は、公益社団法人格を取得し5年目を迎えます。入会歴の浅いメンバーが大半を占めると共に、平均在籍年数が短くなってきている事から、組織として守らなければならない「JCの約束事」「JCの決まり事」を理解しているメンバーが、減少している様に思います。組織を、未来永劫守り続けていく為の「約束事」である定款の把握、規約の把握、会議や日々の活動に於ける掟としての「決まり事」を周知徹底する事が必要であると共に、今後も運営方法や予算編成、予算執行、コンプライアンスに関する審査を適正に行い、公益社団法人として責任と自覚を持った運営をしなければなりません。そして、青年会議所は事業に至る背景、目的、手法を盛り込んで議案書が作成され、事業計画書をもとに、事業を実施し次代に引き継ぐ為に検証が行われます。我々は、より良い乙訓を目指し様々な事業を行う中で、議案書を通す為の事業計画では無く「明るい豊かな乙訓の実現」により近づける為に、「何の為に」という事を常に意識して活動していか

ければなりません。

日々の青年会議所活動に於いて目的が付き物である様に、人生に於いても「何の為に、どの様に行動すべきか」を考えて行動する事で、自身の方向性を見失わず歩む事が出来ます。日頃から目的にこだわり、「明るい豊かな<sup>まち</sup>乙訓の実現」に向けてより良い会議運営、各委員会からの議案配信、議案精査を徹底して濃密で実り多い会議を実現しましょう。そして、会議に於ける「約束事」「決まり事」を再度認識して頂く機会を設け、これまでの乙訓青年会議所の会議体制を引き継いでいくと共に、メンバーの積極的な会議へのオブザーブを推奨し、公益団体として信頼性のある会議運営を心掛けていきましょう。

### あふれる情熱と高い志を次代に繋ぎ、乙訓の未来を創ろう

我々が、日々活動する乙訓青年会議所の組織に於いて、各役職の職務に対する役割を今一度確認して欲しい。委員長はやはり尊敬される委員会のリーダーであり、副委員長は委員長を支える強力なサポーターでなければならない。そして、幹事は委員会メンバーが心から信頼出来る縁の下の力持ちであって欲しい。大人の学び舎である青年会議所で、役職が人を育てるという様に、誇りを持ってその時にしか学び得ない事を経験して頂きたい。また、青年会議所活動が40歳までと同じで、単年度という限りがあるから思う存分活動出来るのです。単年度だから毎年様々な可能性を見出せるのです。そして単年度だからやり直せるのです。

「時は命なり」

どうか、限られた命を大切に使い、思いっきりチャンスを楽しんで欲しい。

「Positive Change」

より良い変化が乙訓青年会議所を牽引する原動力になるのです。

笑顔で超えていこう！

<sup>まち</sup>乙訓の為に、家族の為に、自分の為に。そして未来の為に！